古文書は ごみではなく宝の山

八代古文書の会
蓑田 勝彦さん（植柳上町）

平成27年2月25日、一冊の本が刊行された。タイトルは「熊本藩の社会と文化」。熊本の生活を古文書から読み解いた内容が、江戸時代のイメージを大きく変えた。発行は八代古文書の会で、その編著者を務めたのが蓑田勝彦さんだ。

高校で日本史を教えていた蓑田さんの古文書との出会いは学生時代に遡る。「大学が買い入れた松井家古文書の整理と目録作りを授業で経験しました」と懐かしそうに語る。それから50年以上も歴史研究を続け、10年ほど前から著作集出版の話があった。「自分しか知らないことが多くあるので元気なうちにたくさん書き残しておきたい」と一念発起し、約3年かけて八代古文書の会「会報」として50号まで発行し合冊した形で今回上梓（じょうし）した。

一般的に知られる江戸時代の税制は「五公五民」で米の収穫量の半分は年貢として領主に納めるという過酷な時代だと思い込まされている。しかし、蓑田さんの「惣産物調帳（そうさんぶつしらべちょう）」などの研究によると、江戸時代末期における熊本藩の平均貢租（こうそ）率は23.5%と低く、一人あたりの年間余分（黒字）が銭7貫420文（現在の価値では約22万2600円）となっている。結果として多くの庶民が「寸志（藩への寄附金）」を差し出して、名字帯刀を許されたり、頭に被る笠（かさ）ではなく傘（からかさ）を使用できるようになっていた。寺子屋の急増で識字率も向上し、また新田開発なども進み熊本藩の名目石高54万石から生産高192万石まで経済は発展していた。更に驚くべきは、「富講（とみこう）（宝くじ）」の大流行。「寺社富」の名目で新田開発の資金や火災後の復興資金を年間何十回も得ていた。幕末期になると「千両富」（一説によると1等賞金1億円のジャンボ宝くじに相当）も興行され、1枚2000文（現在の価値では約6万円）の富札が熊本藩内で数万枚も販売される熱狂ぶりが絵図でも残されている。

蓑田さんが代表を務める八代古文書の会は、昭和53年に発足し、約15人の熱心な会員に支えられ38年目を迎えている。古文書読解では、「天窓」を「あたま」と読む独特の語彙（ごい）への対応など求められる技術は広く深いものがある。「内容が理解できるまでに長い年月がかかるからこそ若い人たちにも参加して欲しい」と博物館学芸員が講師となる「古文書講座初級編」（24ページ掲載）による後継者育成の取り組みに期待が高まる。

毎月第3土曜日午後2時から博物館の「古文書講座上級編」の講師として活躍中の蓑田さん。「古文書はごみではなく宝の山、現代の行政文書なども保存しておいて欲しい」と紙媒体での保存を呼びかけている。

▲八代古文書の会の皆さん（着座しているのが蓑田さん）

※「熊本藩の社会と文化」は八代市立博物館で入手できます。税別定価6000円。

目　次
Table of Contents

2015.JUNE　No.126

3 八代市プレミアム付商品券 スーパー元気券を販売します
4 臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金、児童手当・特例給付現況届
5 八代市のお財布情報
9 八代市住民自治によるまちづくり行動計画（後期）
10 平成27年度 自主文化事業
11 災害時 事前の備えが生命のカギ
12 歯の健康週間
13 八代市職員募集 〈前期日程募集・後期日程概要〉
14 くらしの情報
16 市民カレンダー
18 くらしの情報
27 広告
28 まちのわだい
31 伝言板
32 平家いずみお茶まつり

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。
トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ